

JHFREPORT



第6回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト応募作品 前島聡夫「空と山々」撮影地：七曲

2020年度JHF事業計画と予算

新型コロナウイルスに翻弄され不穏な空気のなか2020年度がスタートしました。公益社団法人として10年目を迎えたJHFは、2020年度事業計画と予算を次のように策定しました。

事業方針

2019年度は上級タンデム技能証制度がスタートし、各地で行われた検定会では多くの合格者が生まれました。しかし、この検定会を通じて教員を含め

たベテランフライヤーのフライト技術に改善の必要のあることが判明したため、今後は教員制度の見直しについても検討していきます。ハンググライダー教本を完成させパラグライダー教本を改訂します。

JHFが公益社団法人となったときに別途積み上げておいた公益目的事業基金の残金は2019年度中に取り崩して会計に組み入れました。

保険金支払いを要する事故が減らな

いたためにJHFが保険会社に支払う保険料が増加しました。今後も教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図っていきますが、会員の減少傾向も考えると会費の値上げも必要になってくると思われます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

フライヤー人口は少しずつ減少が続いています。死亡事故0と新会員獲得に取り組んでいきます。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

スポーツ&LIFE



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

事業の具体的内容

PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

MPG=モーターパラグライディング

【理事会・事務局の事業】

- 1 全国のフライヤーの実態把握と安全対策
- 2 愛好者増加の推進
- 3 ハング・パラグライディングのイメージ向上・宣伝告知
- 4 委員会の主体的活動のバックアップ
- 5 ボランティア制度の活用促進
- 6 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 7 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 8 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 9 第三者賠償責任保険の付保継続
- 10 JHF白書の編纂
- 11 寄付・助成金獲得への取り組み
- 12 その他定款の定める管轄事項
- 13 オンライン手続き、キャッシュレス決済の研究

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理
- 2 事故調査活動
- 3 機体登録制度の推進
- 4 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの推進（教員・スクール事業委員会と合同）
- 5 海外情報収集と告知（DHV infoの翻訳など）
- 6 セーフティーノーツの管理
- 7 ハング機体整備制度・現状調査
- 8 安全性委員会ホームページの管理
- 9 事故情報アンケート調査実施（全国スクールおよびクラブエリア宛）
- 10 チェック5タグの装着を推進（安全注意喚起用）
- 11 パイロットセミナー機材の充実（PPT機材の作成等）

●教員・スクール事業委員会

- 1 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの開催（教員検定員が各地区で開催）
- 2 教員実技検定（教員検定員が各地区で開催）

- 3 教員学科集合検定（東京にて3日間 冬期間）
- 4 教員助教員更新講習会（教員検定員が各地で開催）
- 5 レスキューパラシュートトリパック認定証更新講習会
- 6 レスキューパラシュートトリパック認定証検定会
- 7 PG教本改訂版の発行
- 8 HG教本の発行
- 9 上級タンデム証検定会の開催（各地で開催）
- 10 委員会と教員検定員の連絡会議の設置。下記の事業に教員検定員の協力を得られるようにする
- 11 教員の資質向上の支援
- 12 上級タンデム教本及び学科試験問題の改訂
- 13 PG・HG学科試験の見直し
- 14 教員養成課程の作成及び教員技能証取得用の教本作成

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズの運営
- 3 フライトコンテストの運営
- 4 HG競技委員会ホームページの運営
- 5 クラスI日本選手権の開催（2020年3月18日～22日、茨城・板敷）
- 6 クラスV日本選手権の開催（2020年3月27日～29日、茨城・足尾）
- 7 クラスV世界選手権（アメリカ、フロリダ 4月20日～5月1日）に選手派遣
- 8 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 9 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 10 競技会におけるスポーツクラスの普及および振興

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局/ホームページ管理
- 3 ライトトラッカー本格導入
- 4 Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグの管理
- 5 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 6 XC日本選手権の開催（2020年9月18日～22日、茨城県・足尾）
- 7 アキュラシー日本選手権の開催（時期、開催地未定）
- 8 アキュラシーアジア選手権（カザ

フスタン 5月30日～6月7日）に選手派遣

- 9 第1回XCアジアオセアニア選手権（オーストラリア 12月5日～19日）に選手派遣
- 10 アキュラシージャッジ制度を確立・ジャッジ員育成

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの整備
 - 1) 理事会諮問事項への答申等
 - 2) JHF技能証規程の改定（HG・PG・モーター分割）
 - 3) FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究
 - 4) ウェブでの総覧整備（規程改正およびFAI部分）
<https://jhf.hangpara.or.jp/office/office.html>
- 2 他委員会および事務局との連携
 - 1) 役員選任について役員選任実行委員会に協力して検討
 - 2) HG教本の改訂作業に協力

●補助動力委員会

- 1 イベント（大会）案 5月23日、24日または秋口の予定
- 2 飛行映像を含めた安全講習
- 3 MPG安全マニュアル配布
- 4 補助動力委員会ホームページやSNSの充実
- 5 下総自衛隊安全会同への参加（5月）
- 6 技能証体系の見直し

●ハングパラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討（継続）
 - －フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し
 - －飛ぶのを止めてしまった方の状況分析（フライヤー会員データベースを活用）
 - －学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
 - －家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」の更新と配布
 - －JHFレポートの活用（特集記事など）
 - －SNSを活用した情報収集と発信
- *他委員会とも連携した情報発信
*フライヤー会員から広く情報収集

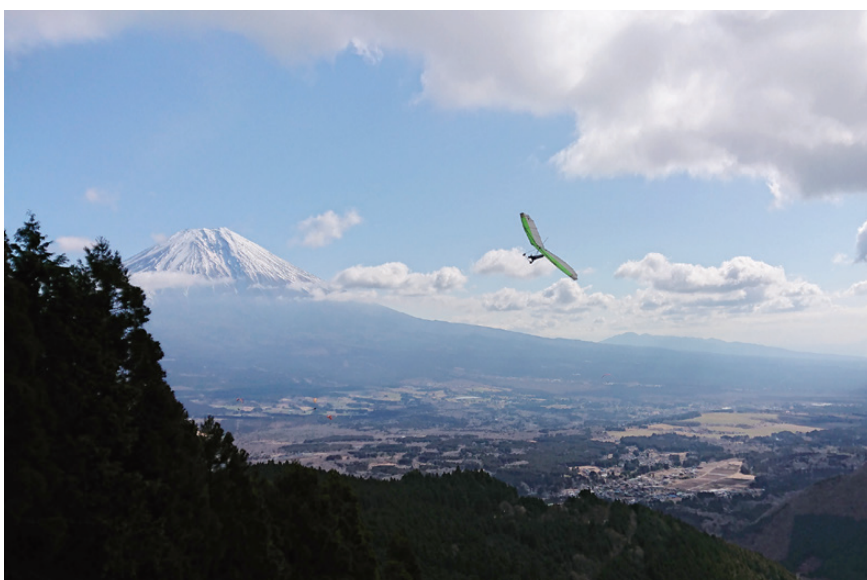
- 2 体験会等イベントへの協力
- 3 外部組織との連携
 - VR体験に関する大学研究室との協力体制維持
- 4 HG教本およびPG教本改訂への協力

●役員選任実行委員会

- 1 2021年度総会における役員選任の準備
- 2 役員選任規約の改定検討

●事務局（広報出版活動）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スクール紹介サイトを含む）
- 2 JHFレポートの発行
- 3 関連媒体への情報提供（HG・PG関連雑誌に情報を提供）
- 4 一般媒体などへの情報提供（HG・PGの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 日本のHG・PGの歴史編纂事業
- 7 スクール・エリア登録の推進
- 8 ITシステムの更新および効率化



この2月に開催したJHF教員検定員研修検定会より。教員制度の見直しも2020年度の大きな課題。

【その他の事業】

上記のほか、この法人の目的達成に必要な下記の事業を行う。

- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

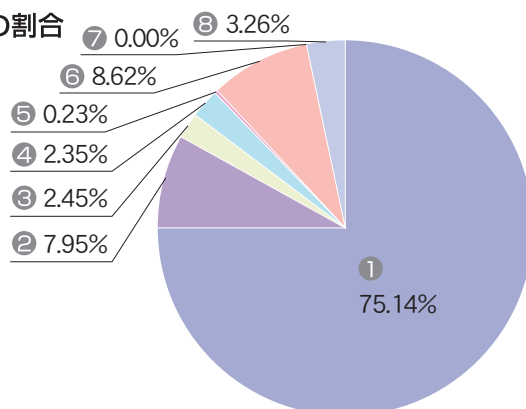
予算

2020年度予算の内訳を下のグラフにしました。JHFの活動を支えているのは会員の皆さんの会費や各種申請料などです。これらの収入がどのように2020年度のJHF事業に活かされるのかをご覧ください。

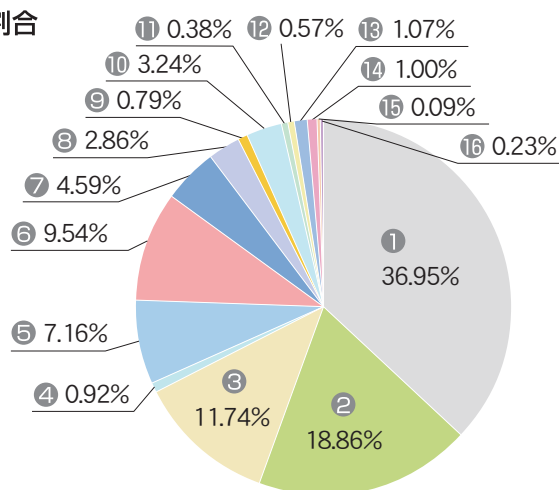
収 入 （単位:円）	
① 会費等	32,254,000
② 技能証の発行に基づく収入	3,411,000
③ 競技に関する収入	1,050,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	1,010,000
⑤ 検定会参加費	100,000
⑥ 補助金	3,700,000
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	1,400,000
合 計	42,925,000

支 出 （単位:円）	
① 会員サービスのために	19,552,797
② JHFの維持運営のために	9,980,000
③ 都道府県連盟の補助のために	6,210,000
④ 公益事業の推進のために	488,000
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	3,790,000
⑥ 広報・普及活動のために	5,050,000
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	2,430,000
⑧ 競技のために	1,513,000
⑨ よりよい教習環境のために	420,000
⑩ 委員会活動のために	1,712,700
⑪ 補助動力のために	200,000
⑫ 学生の補助のために	300,000
⑬ 事故調査や安全のために	565,000
⑭ 海外との交流のために	531,000
⑮ 制度のために	50,000
⑯ 総会のために	120,000
合 計	52,912,497

収入の割合



支出の割合



※実際の収支は積立金引出なども予算化しているため赤字にはなりません。

2020年度-2022年度教員検定員を認定

2019年度までの教員検定員の任期満了を迎え、2020年度からの検定員を認定するために、JHF教員検定員研修検定会を2月18日(火)から20日(木)まで静岡県富士宮市にて開催しました。

全国から各都道府県連盟の推薦を受けた20名の候補者に参加いただき、教員・スクール事業委員会が中心となって3日間の研修・実技検定、学科検定を行いました。

JHF教員検定員制度は、全国各地に

においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。教員検定員は、教員実技検定、安全セミナーも含め講習会や検定会の講師、事故の調査も行います。

今回の研修検定では17名を認定しました。2023年3月までの3年間、右記の方々が教員検定員として活動していきます。

●教員検定員(敬称略)

北海道	田代 茂樹
青森県	古川 正司
山形県	金井 誠
群馬県	伊尾木 浩二
山梨県	岩橋 亘
栃木県	殿塚 裕紀
茨城県	板垣 直樹
茨城県	北野 正浩
茨城県	福田 武史
静岡県	加賀山 務
静岡県	目黒 敏
石川県	山口 隆文
大阪府	片岡 義夫
京都府	坂本 三津也
福岡県	小林 秀彰
福岡県	角町 正彦
熊本県	西本 一弘



さまざまな研修に真剣に向き合う。



実技検定。丁寧に模範演技を行う。

JHFの動き

常設委員会の委員を選任しました 2年間よろしくお祈いします！

3月5日理事会・3月27日理事会で、常設委員会の新メンバーを下記のとおり選任しました。

PG競技委員会と教員・スクール事業委員会は定員を上回る立候補となりましたが、特例として6名、7名の委員で活動します。委員の任期は2022年3月31日まで。各地でさまざまな連盟事業の推進役として活躍していきます。

*敬称略、()内は定員。

●安全性委員会(6名)

伊尾木浩二、竹村治雄、西本一弘、目黒敏、山本貢

●教員・スクール事業委員会(6名)

伊尾木浩二、大竹口昌輝、奥野圭一、北野正浩、西泉隆広、福田武史、山口隆文

●HG競技委員会(5名)

板垣直樹、鈴木皓子、鈴木由路、田中元気、牟田園明

●PG競技委員会(5名)

氏田敏彦、岡芳樹、上山太郎、鈴木洋史、長島信一、村上修一

●制度委員会(5名)

泉秀樹、井上潔、柿澤貴宏、中瀬誠、宮川雅博

●補助動力委員会(5名)

伊尾木浩二、賀家慎司、須藤彰、橋田明夫、宮本司

●ハングパラ振興委員会(5名)

井上潔、佐藤研斗、鈴木由路、竹村治雄、堀江譲

●役員選任実行委員会(5名)

荒井稔、柿澤貴宏、鈴木由路、中瀬誠

教員検定・集合学科検定を 2月に実施しました

2月14日(金)～16日(日)、東京都港区の航空会館内会議室で教員検定・集合学科検定会を開催、教員に必要な知識や技術、心構えの研修と、教習実技、学科検定を行いました(実技検定は全国の教員検定員のもとで受検)。

教員レベルを一定に保ち、教員同士の横のつながりを持ってもらうことも集合検定の目的です。

今回は9名が受検。そのうち実技検定も合格済みの2名、呉本圭樹さん(長野)、奥野圭一さん(和歌山)がパラグライディング教員として活動を開始します。

また、教習実技、学科検定に合格の2名、山田真由さん(京都)、名草慧

さん(大阪)は、実技検定合格後にハンググライディング教員として活動します。

6月23日に東京都内の会場で JHF定時総会を開催します

6月23日(火)、東京都北区の北とびあで、2020年度JHF定時総会(通常総会)を開催します。

報告事項は、2019年度の事業報告ならびに決算報告・監査報告、2020年度の事業計画と収支予算。決議事項は、貸借対照表及び損益計算表(正味財産増減計画書)の承認を予定しています。

第7回JHFフォトコンテスト お気軽にご応募ください！

第7回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催。ハンググライディング・パラグライディングの醍醐味や楽しさを伝えられる作品を募集します。データでも応募可能です。お気軽にご応募ください。担当者一同、楽しみにお待ちしております。

募集要項等はJHFウェブサイトのトピックスをご覧ください。応募締切日は2020年9月7日(月)です。

JHF総合保障制度2020年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備える保険、「JHF総合保障制度」の今年度募集が始まりました。以下は東京海上日動火災保険からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

『JHF 総合保障制度』とは

任意でご加入いただくフライヤーのための傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事でも補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるおケガも対象となります。

ご注意くださいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

◆2020年度募集がスタートします

今年度で15年目を迎える本保障制度は、2020年3月1日現在、約826名の会員の皆様にご加入いただいております。

まずは、引き続き安全なフライトを

お心がけいただき、事故なくおケガなくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、**万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。**

◆JHF総合保障制度の特徴

・国内外を問わずパラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中はもとより、お仕事や日常生活でのおケガ、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。

・地震、噴火またはこれらによる津波での傷害についても補償対象となります（この場合は救済者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意ください）。

・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◆現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を3月下旬に郵送させていただきました。大切なお知らせです。書類到着後、必ず内容のご確

認をお願い致します。その上で、以下ご対応をお願い致します。

☐プランに変更あり→期日までに訂正の上ご返送ください。

☐プランに変更なし→自動継続となります。ご返送不要です。

☐ご解約→必ずご返送ください。

☐引落口座変更→専用書類がございます。下記問合せ先までご連絡ください。

◆新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、同封のパフレット等をよくお読みいただきお申込みください。

※締切厳守…5月7日（木）必着

【保険に関するお問合せ先】

東京海上日動火災保険代理店
株式会社東京海上日動パートナーズ
TOKIO池袋支店

〒170-6030

東京都豊島区東池袋3-1-1

サンシャイン60ビル30階

TEL.03-6907-4622

（平日9:00～18:00 土日祝除く）

FAX.03-6907-4623

Email : info.ikebukuro@tnpgrp.jp

フライヤー登録と同時に加入する保険（第三者賠償保険）では、ご自身のおケガは補償されません！

県連だより

■小学校屋上校庭で航空スポーツ教室 東京都ハング・パラグライディング連盟

2020年初めての日本航空協会（JAA）主催航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」が1月26日に開催されました。東京都連はJHFからの委託を受けパラグライダー体験を実施しました。

第45回を迎えた当日は雨模様で実施が危ぶまれました。当初台東区「谷中防災広場 初音の森」で実施する予定でしたが、座学を実施する予定だった「谷中小学校」体育館に場所を移しました。

早朝のバルーン体験も悪天候のため体育館内でバルーンを広げるに留まりましたが、広げたバルーンの中に入るといふ減多に無い体験を参加した小学生・保護者にしていただくことができ

ました。

午前9時頃には雨が止み、急遽校庭でパラ体験ができないかという話になり、保護者の皆さんが一生懸命校庭の整備をしてくださり、39人の小学生に



保護者の皆様のご協力で体験が可能に。

パラグライダー体験をしていただくことができました。

都心部にある谷中小学校の校庭は校舎屋上にあり、全天候グラウンドのため、直前まで雨が降っていても乾拭きすることで使用が可能であり、幸いました。

浮遊体験のできた子供達の笑顔は皆素晴らしく、この中から未来のパイロットが出てくれたらと感じました。

（報告：中瀬）

*スカイキッズプログラム：日本航空協会が2003年から企画・開催している、理論と体験を組み合わせた航空スポーツ教室。「子供たちに航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空への憧れや科学する心、自然に親しむ心を醸成すること」が目的。

上級タンデム技能証：3月31日で移行措置期間を終了

JHF教員・スクール事業委員会 北野 正浩

移行措置の終了

上級タンデム技能証制度の導入に伴う、タンデム証からの移行措置は、2020年3月31日で終了しました。「暫定上級タンデム技能証」は同日をもって無効となり、上級タンデム検定を受検・合格していない方の技能証は「タンデム証」になります。

「タンデム証」で同乗飛行ができるのは、パイロットの同居親族とパイロット証を持つ方です。あるいは、上級タンデム証を持つ教員／助教員の監督下であれば、JHFフライヤー登録者を乗せて飛行することもできます。この場合は「上級タンデム練習生登録」を監督者（上級タンデム技能証を持つ教員／助教員）からJHF事務局に提出してもらってください。

《重要》保険について

上級タンデム技能証を有さない方が、タンデム技能証の範囲外の方を同乗させて飛行した場合、あるいは上記の上級タンデム練習生登録をせずにJHFフライヤー登録者を同乗させた場

合について、保険代理店の見解は次のようになっています。

『事故を起こした場合でも、パイロットあるいはスクールが加入しているスクール賠償保険による保険金の支払いはなされずと考えられる。ただし、JHFの技能証規程が守られていない状況であると保険会社が判断した場合、JHFそのものの信用がなくなり、以後JHFに関するスクール賠償保険の引き受けを一切断られる恐れがある。』

ひとつのスクールの問題ではなく、すべてのスクールに影響が及びかねません。タンデム飛行のリスクを理解し、技能証規程の範囲外の方を同乗者とするタンデム飛行は、絶対に行わないようお願いいたします。

今後の検定

2020年4月1日以降、上級タンデム技能証の検定は次のようになります。

1. 再受検に関する規程を変更し、従来は「不合格の場合は一ヶ月以上の再

練習期間を設け再検定を行う」でしたが、「不合格の場合は、上級タンデム技能証を有する教員の推薦を受けた上で再検定を行う」としました。

2. 上級タンデム証を初めて受検する方は、「上級タンデム技能証実技チェックシート」及びタンデム飛行50本以上のフライトログの提出が必要となります。

*JHFウェブサイトの上級タンデム技能証検定会申込みフォームにてご入力の上、上級タンデム技能証実技チェックシート、タンデム飛行50本以上のフライトログ、健康診断書、参加誓約書をご提出ください。

3. 受検料は、初回20,000円、実技のみ再受検の場合10,000円、実技と学科両方再受検の場合は20,000円になります。2019年3月からの1年間で開催した検定会の収支を計算した結果、受検料の改定が必要となりました。ご了承ください。

4. 今後の上級タンデム技能証検定スケジュールは、決まり次第JHFウェブサイト等でご案内します。

学連ニュース

2020年度日本学生フライヤー連盟(JSFF)の理事長になりました日本大学の平井聡雄です。学生フライヤーが楽しく活動できるよう1年間頑張ってください。どうぞよろしくお願いいたします。

●学連総会の開催

3月15日に学連総会を行いました。新型コロナウイルスの影響もあり6支部8箇所をオンラインで繋いで開催です。現役員より活動報告や問題提起、新役員を含めて予算案や活動方針について議論しました。

2019年度の活動報告では、HPの更新やフライトコンテストの始動、学生への意識調査の報告などがありました。意識調査の報告では“始めたきっかけ”“辞めなくなった経験”“卒業後の意欲”“大会への参加意欲”などの項目で調査を行いました。前3つの項目では2年前のアンケートと大きく変わ

らず、新たな設問である最後の項目では大会等の競技性よりもツアーや合宿など楽しく飛ぶことへの関心が高いことがわかりました。この結果を受けて学連としても今後の活動へ繋げていきたいと思っています。また、定期的にアンケートを行い、傾向を示していきたいと思っています。

2020年度は「安全意識の強化」と「広報活動の強化」を軸として活動を行っていきます。昨年起こってしまった事故を受けて各役員から学連としても「安全」について考える機会を作りたいという意見が多数出ました。現在各エリアにて安全講習会など行われていますが、学連の繋がりを活用した多くの方のお話を聞ける機会を作りたいと思っています。広報活動の強化では、学連の活動内容が多くに学生に伝わっていないことや昨年始めたフライトコンテストの認知度向上などを踏まえて、多くのフライヤーに認識していただ



全国支部をオンラインで繋ぎ学連総会を行った。

る広報活動をしていきたいと思っています。

●春休み中の学生大会

学生の春休み期間中に荒神山にてHG新人戦、足尾山にてPG学生選手権、龍門山にてHG龍門大会を開催する予定で準備していましたが、移動中のバンや宿泊所での新型コロナウイルス感染拡大が懸念されたため開催を中止しました。

開催はできませんでしたが、準備をしていただいた学生、関係者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

2019年事故概要

JHF安全性委員会 竹村 治雄

2019年の事故

2019年、JHFに報告された事故の概要は以下の通りです。残念ながら死亡事故ゼロへの道のりは厳しい状況です。
[2019年度事故件数] カッコ内死亡者数
パラグライダー 26件 (4)
モーターパラグライダー 4件 (1)
ハンググライダー 5件 (2)
事故報告の年代別ならびに傷害の程度別の件数はグラフに示す通りです。

これまで多かった着水事故が減少し、着水による死亡者はありませんでした。一方で、ツリーランディングからの自己脱出を試みて失敗したとみられる重大事故もあり、安全意識の向上は道半ばといえるでしょう。

安全性委員会では、この記事の後半にありますように、インシデントを含む、より多くの安全性に関する情報を収集し、それをもとにより詳細な分析が行える環境の構築を目指していきたいと思います。

最近の重大事故から

今年に入ってから、パラグライダーの死亡事故が2件発生しています。

1件はレッグベルトの締め忘れ、他方は海辺のエリアでの着水事故でした。亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。

これらの事故を教訓として、このスポーツのさらなる安全を図ることが、私たちすべてのフライヤーの願いであることは間違いありません。プレフライトチェック、クロスチェックの徹底、着水の可能性のあるエリアでのライフジャケット着用のエアリアルール化などについて、エリアのフライヤー同士での意識合わせをお願いします。

レッグベルトの締め忘れについては、空中でリカバリーする方法（写真）がありますが、事前にシミュレーターでの練習が必要、かつ、一定の体力が必要で難易度は高いと言えます。

安全なフライヤーになるために

あるパラグライダーのテキスト(*)には、「航空は本質的に危険であるが、しばしば技能不足や失敗に寛容であるが、それだけでは済まないことが多い」と記されています。また、どうしても我々は「航空は本質的に危険ではないが、能力不足と失敗には全く寛容ではない」と考えがちであるとしています。そのうえで、安全なフライヤーになるためには、

●安全なフライヤーになりたいという思い

●航空の安全性はどこから来るのかという理解

●自分の知識と欲求に基づいて行動するための成熟と自己規律

以上の3点を必要としています。

その結果、安全なフライヤーは、

●まず、自分の装備の限界と、自分の個人的なスキルや知識の限界を認識できること

●第二に、それらの制限の中で一貫して動作するための自己規律を持っていること

●第三に、フライト前の手順や機材のメンテナンスなどのすべての詳細に、注意を払えることとしています。

日頃から、自身の技能、気象条件、エリアの地形など、あらゆることを総合してその日フライトするかどうかを自分で判断できることが重要です。そ



Jeff Goin: Paraglider & Paramotor Instructor, Air Head Creation 2018

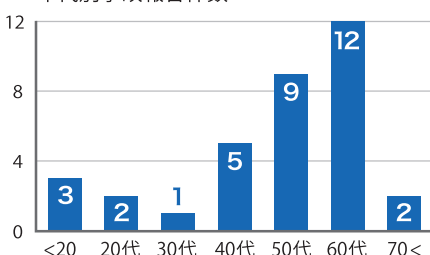
の日安全にフライトできるコンディションかどうかは、フライヤーひとりひとり基準が異なり、そのため自身の技能について最もよく知っているはずの自分が、最も正しい判断ができるはずですし、その判断に従う自己規律を持ちたいものです。

* Mike Meier and Mark Stucky: Paragliding - A Pilot's Training Manual, Wills Wing 2004.

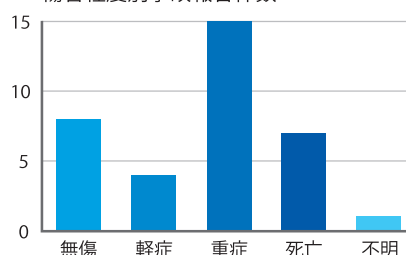
事故報告・目撃情報・インシデントレポート報告のお願い

より正確に、事故の傾向を分析し、安全への指標とするためには、より多くの事故に関連する情報が必要です。具体的には、従来の事故報告に加えて、フライヤー自らが自身のインシデントについて報告するインシデント報告、当事者だけでなく事故を見たどなたでもが報告できる事故目撃情報を広く募集しています。JHFのホームページのリンクからの報告をお願いします。

年代別事故報告件数



傷害程度別事故報告件数



2020年CIVL総会レポート

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）の総会が今年も開催され、日本を代表するデレゲート（委員）として岡芳樹さんが日本航空協会（日本のNAC: National Air Sports Control）より派遣され、牟田園明さんがオブザーバーとして参加しました。以下はお二人からの報告です。

PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

XC=クロスカントリー

日程：2020年1月30日、31日 各部会

2月1日、2日 総会

場所：スイス ローザンヌ

総会参加国：ブラジル、ブルガリア、チェコ、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、イラン、日本、北マケドニア、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、スロベニア、スイス、台湾、イギリス、アメリカ合衆国

委任：オーストリア→ドイツ、デンマーク→フィンランド

【FAI関連】

■FAIの財政状況が悪く、事務局員を削減。メンバーシップ年会費を10%値上げ。

■FAIはこれまで各委員会（ASC）に相談することなく、物事を決定してきたが、これは円滑な運営を妨げてきた。FAIの役割を、原点に回帰し、各委員会と緊密な情報交換をして記録公認、大会公認に注力する。

■ワールドエアゲームズ(WAG)は、トルコ内部の問題で中止となった。トルコで2020年開催の予定であったが、諸般の事情で2022年開催となり、さらに2023年に延期の希望が出されたため、FAIとして、これ以上先延ばししても開催が確約できないと判断した。

■FAI役員（カテゴリー1大会のジャッジ、スチュワード、ジュリーなど）はFAIがかける保険でしっかりとカバーされる。これはカザフスタンで開催されたPGアキュラシーアジア選手権のテストイベントで、FAI役員として参加していた者が交通事故にあい、治療費、救済者費用を保険で手当てするの

にかなりの困難に遭遇したため、問題が露呈し、それを改善するため。

■FAIはドバイのWAGの成功から、マルチイベントをメディアに売れるものとするのを企画してこの数年間で多大な投資をしたが、失敗。財務状況を悪くした。

■スポーティングライセンス(SL)データベースは、6年も経過したが未だ満足に活用されるレベルに達していない。

【CIVL全体】

■公認大会申請管理システム（AMS：FAI公認申請を電子的に管理するシステム）は2019年中頃から稼働している。JHFからの意見では、慣れるまでに少し時間がかかりそうとのこと。

■大会管理システム（EMS：AIRTRIBUNEのようなもので、大会の案内、オンラインエントリー、FAIスポーティングライセンスのチェック、大会結果のアップロード、WPRS：The World Pilot Ranking Systemポイントの計上などをするソフト）は、FAIと取引をしているウクライナのNoosphereに発注してみたが、非常に複雑で誰でも使いこなせる代物ではなかったため、他に発注する方向。既にイタリアのAIRSCOREというサイトが非常によくできたものを立ち上げているので参考にする。

<https://airscore.legapiloti.it/>

しばらくは現在のFSを延命する方向だが、ようやくパッチワークではなく、すっきりと統合されたスコアリングを含めた大会管理システムが出来上がりそうな予感がする。

■財務報告と予算案は承認された。ただし、2018年度はライブトラッカーを購入したり、アキュラシーのAMDシステムを購入したりと、支払いが収入を上回っているが、まだ蓄えがあり債務超過とはなっていない。しかし、今後もEMSを含めた支出が多くなると予想されるので、収支のバランスに十分気を付ける必要性が強調された。

■セクション7（S7：HG・PG関連）カテゴリー1大会において参加人数が参加枠を上回った場合の、選手選考方法をS7I（Guidelines and Template）

に追加する提案は承認された。

■S7共通3.1項〈カテゴリー1大会の公認料に関して〉

現行の「参加パイロット枠1人、フライト日1につき3.2ユーロ」を4.5ユーロに値上げする。また現行に存在する上限（世界選手権で5,120ユーロ、大陸選手権で3,200ユーロ）を取り払う。理由：これまでの公認料では、CIVLが支払う費用を賄えないことと、2004年から公認料が変わっておらずインフレを考慮すれば値上げは避けられない。提案は承認された。

■S7共通3.2項〈カテゴリー1大会のエントリー費に関して〉

国別ランキングでトップ2位までの国はエントリー費を直接FAIに振り込むこととなっている文言を、すべての国は主催者に振り込み、主催者が大会開始60日以前に大会公認料の110%をFAIに振り込むことに変更する提案は承認された。

■S7共通12.4項〈カテゴリー2大会の公認料に関して〉

公認料はパイロットのエントリー費の1.5倍であるが、大会がマルチクラスであった場合は、最も高いエントリー費を基準とする文言を追加する提案は承認された。また12.4項、後半に存在する「カテゴリー2大会の主催者が参加選手全員のFAIスポーティングライセンスをチェックしていないと判断された場合、最初の違反ではCIVLから警告の文章をNAC宛に送り、それ以降の違反については財政的罰則を与えることとする；この罰則はその国からのそれ以降の公認申請料を2倍にする。」なる文言は、これまで実施されたことがないので削除するという提案は承認された。

■カテゴリー2大会においては参加枠の25%を海外選手のために大会開始15日前まで確保しておく必要があるが、当該大会がCIVLカレンダーにかなり以前にアップされている場合にもこのまま適用するのはいかなものかということで、公認された期日によって確保しておかなければならない日数を以下のように変更する提案は承認された。大会開始30日～60日前に公認→15日 61日～90日前に公認→30日

91日～120日前に公認→45日

121日以上前に公認→60日

■S7共通6.4.1項〈ローカルルールの変更に関して〉

現行は、スチュワード、チームリーダーおよび陪審員による協議の後、大会委員長により公表されるとなっているのを、「スチュワードとチームリーダーによる協議の後、陪審員による承認の後、大会委員長が公表する」に変更する提案は承認された。

■カテゴリー2大会において、コンプレイン、プロテスト、アペールの取扱いが明確でなかったのを、これをS7共通の12.7項に追加する提案。その内容は；プロテストコミティーは、必要となったときあるいは最初のタスクが行われる前に、大会委員長の責任の下に構成される。そのメンバーは大会委員長あるいは選手あるいは両方によって選出される。メンバー構成の最小単位は3人とし、メンバーが提起されたプロテストに関係している場合は、プロテストが審理されるまで、一時的にその機能を停止され、交代メンバーにとって替えられる。

さらにアペールに関しても以下のように追加された。

1. 大会終了後7日以内に大会を主催したNACに対してアペールする。
2. NACからの回答に納得しない、あるいは30日たっても回答がない場合はCIVL理事会にアペールを提出する。これには1,000ユーロ（結果のいかんにかかわらず返済はしない）が必要。理事会は構成員3名の査問委員会を設置し30日以内に回答する。
3. 査問委員会の回答に不服あるいは30日以内に回答がない場合、スポーティングコード総則の6.5および6.6項に従ってCASI:FAI General Air Sport Commissionにアペールをすることができる。

また、コンプレイン、プロテストのタイム期限に関して以下のとおり承認された。

●コンプレイン

アキュラシー：プロビが公表されてから1時間

XC：プロビが公表されてから4時間（ただし公表が22時以降となった場合は翌日の11時以降とする）

●プロテスト

コンプレインに対する回答が公式掲示

板に発表されてから4時間（ただし最終の2タスク／ラウンドに関しては1時間）

■S7JとしてJury Guidelinesを追加する提案は承認された。

■現行のS7I〈Guidelines and Templates〉の6項にあるParticipant Incident PolicyをUnsporting behavior and Misconductとし、S7共通の12項として追加する提案は承認された。

■S7D 2.4項

現行では、国際技能記章（デルタ金章とかアキュラシーダイヤモンド章とか）のバッジは、NACがFAIから購入し、申請したパイロットに個別に渡しているが、これをNACの承認を得た上で、パイロット個人がFAIから購入できるシステムを追加する提案は承認された。

■これまでのカテゴリー2大会は、例えばPGワールドカップのようなものから、かなりローカルなものまで幅広く、大会管理、情報伝達などピンキリであったので、カテゴリー2大会の最低要求事項を決める提案は修正を加えて承認された。以下、その要約。

*英文のホームページ

*英文のローカルルール（テンプレートに即した）

*大会役員として大会委員長およびその主たる役割が安全責任であるセーフティディレクターは大会期間中、大会選手あるいはチームリーダーであってはならない。アキュラシーにおいてはジャッジングチームのメンバーはパイロットあるいはチームリーダーであってはならない。その他の役員は必要な時に、役員としての業務を代行できるものを手当てできるならばパイロット

あるいはチームリーダーとなることは可能。

*大会委員長あるいは／およびセーフティディレクターは、入手可能な全選手のライブトラッカー、通信装備（個人および主催者が提供した）、GPS、個人所有携帯電話、ビーコンなどのリストを持っているべきである。

*最初のタスク前に、全体パイロットブリーフィング（全選手参加必須）を開催しなければならない。そこで最低限説明される事柄は

- a) 大会の安全に関するすべての事柄
- b) 連絡方法および帰着申告に関する事柄
- c) タスクおよび／あるいはセーフティコミティー、そして必要ならプロテストコミティーの選抜
- d) 大会に関するパラメーターの討議（XCのみ）
- e) テイクオフ方法の討議

*タスクの決定

タスクの設定は大会委員長の責任で、大会委員長は全体パイロットブリーフィングにおいて選抜された少なくとも3人からなるタスクおよび／あるいはセーフティコミティーにより補佐される。

*結果

大会の結果は毎日大会ホームページに公表される。アキュラシーにおいてはS7Cおよびローカルルールに従って各ラウンドごとに公表される。

■S7D記録および記章に関する提案

1. 現在のS7D 3.2.1項において記録飛行の種類としてストレート距離（straight distance）があるが、これをフリー距離（free distance）とする提案。これはよりイメージに近い呼び名にするため、特に内容を変更することではない。



総会には20か国が参加。総会前に各部会が開かれた。

2. 現在の3.3.1項〈事前告知〉において「必要なオブザーバーが存在し、挑戦を適切に管理する調整がなされている場合は事前告知あるいは許可は必要ない。宣言記録はテイクオフ前に挑戦者のNACに電子メールあるいはその他の電子的方法により通知しなければならない。」となっているところを、「FAI役員が存在し挑戦を適切に管理する調整がなされている大会を除いてすべての記録挑戦には事前告知が必要である。挑戦者はテイクオフ前に挑戦者のNACに記録挑戦の宣言を電子メールあるいはその他の電子的方法により通知しなければならない。」に変更する。

3. 記録を打ち破ることはどんどん難しくなっている現状を考慮して、3.2.44〈同等記録〉として、これまでの記録と同じ記録を達成したパイロットは、同等記録を申請できる、を追加する。

以上は承認された。

■これまで陪審員には日当が無かったが、これを改め、S7共通の11.1.6.2項に「CIVLはカテゴリー1大会の陪審員に対し予定されている競技日1日に付き50ユーロを支払う責任を有する。」を追加する提案は承認された。

【HG/PGXC関連】

■XC大会において（S7A）現行では、同点となった場合にタイブレークのルールが明記されている（同点となった場合は、それぞれの選手あるいはチームのタスクごとのランキングを合計して、数の小さい方を上位とする）が、昨年の大会においてこのルールを適用せずに同点のまま同順位としたこともあるので、このルールを削除して、同点を認めることとする提案は承認された。

■S7Aの6.3項にLIVE TRACKERの返却に関してのペナルティーを設ける提案は修正され、6.3項に「着陸後できるだけ早く本部にLIVE TRACKERを戻さないことは非スポーツマン行動となり、大会委員長は適切な罰則を科すことがある。」を追加することとして承認された。

■XC大会におけるレストデイに関して（S7A 3.9項）、アキュラシー大会（S7C 3.7項）に現存する、「レストデイは主催者によりパイロット、チーム

リーダーおよびFAI役員に対しいかなる義務も負わされないものとする」を追加する提案は承認された。

■これはスコアリング（GAPなど）に関するS7Fを改定する非常に興味ある提案。以下、承認された内容の要約。

1. 最終グライド減速因子に関して、ここ何年も使用されていないコンセプトなので、これに関連する文言を全て削除する。

2. ターンポイント（スタートを含む）の取る方向（エンターかエグジットか）はFSが自動的に判断しているので、タスクセッターの思いとは異なる可能性があるため今後指定しないこととする。

3. タスク距離の算出方法が明確ではなかったので明確にする。
スピードポイント計算の距離は、スタートパイロン（SSS）からエンドパイロン（ESS）までの最短距離（スピードセクション距離）とし、タスク距離はスピードセクション距離にテイクオフからスタートパイロンまでの最短距離とエンドパイロンからゴールまでの最短距離を加えたもの。タスク距離にはテイクオフシリンドラーの半径も含まれるように変更される。

4. マルチゲートのレースおよびエラプスタイムタスクにおけるリスタートの明確化。リスタートはスタート後、最初のターンポイントを取るまでは可能とする。

5. （PGにのみ適用）リーディングウエイトを、ゴール率に関係なく一定（ワールドカップで採用している16.2%）とする。

6. これまでは各タスクの点数を、小数点以下第1位を四捨五入して整数で出していたが、これを各タスクでは小数点以下第2位を四捨五入し小数点以下第1位までの点数とし、各タスクの点数を合計した大会最終の点数のみを小数点以下第1位を四捨五入し整数で表すこととする。

7. （PGにのみ適用）タイムポイント（トップゴール者に比較して遅くなるほどタイムポイントが減少するが減少の仕方がトップに近接している者の方が率が大きくなる現状）に関して、ワールドカップで採用している減少率がより直線に近いものを採用する。

8. （PGのみに適用）リーディングウエイトをワールドカップ方式（スピードセクションの最初と最後の近辺で

は、ウエイトが小さく、スピードセクションの中央部分で大きくなる）を採用する。

9. タスクストップとなった場合のスコアに関して、HGの現状では、ゴール者が出るかあるいは、ストップまでの時間が女子選手権では60分以上、女子以外の選手権では90分以上でタスクは成立。PGでは60分以上で成立となっているが、これを、ノミナル時間の50%（ただし最大でも60分）経過すれば成立するに変更する。この変更はとりあえずPGに適用し、HG委員会と協議して理事会はHGにも適用するかどうかを決定する。また、ストップタスクの場合、タスクストップとなった時刻にちょうどスピードセクションエンド（ESS）にいた選手から差し引く時間得点（タスクストップ時刻にわずかにESS手前にいた選手と丁度ESSに到達していた選手のタスク得点との間にギャップが生じる不具合を解消するための点数）を飛行距離に応じて距離得点に再配分する（タスクで得られる得点はその分だけ少なくなってしまうことを解消する）。

■現在、FTVを計算するのに、各タスクにおいて得られ得る最大得点と比較しているが、これを各タスクのトップの得点と比較することに変更する（ワールドカップでは数年前から採用しており、2019年のPG世界選手権でも採用されている）。

■ブラジルからの、FAI公認大会はピンキリなので、大会後に全選手から大会の評価をしてもらおうという提案は修正され、理事会に一任することとなった。

【HG関連】

■タンデム技能証に関して、非営利との注釈を追加して（FAIの顧問弁護士も問題はないとのこと）承認された。

■世界およびヨーロッパ選手権においてクラス1、5、女子を同時に行わなければならないとする提案であったが、同時に行うことができると修正され、またこのいかなる組み合わせの選手権を立候補する場合も、大会は奇数年に行うことができる、を追加して承認された。

■現在S7共通の5.2.4項にあるHGの視認性に関する文言を、S7共通から削除し、少し文言を変え、S7Aの8.2.5.1として「クラス1、5およびスポーツ

において視認性を改善するために、すべてのグライダーは視認性の特に高いリーディングエッジあるいは高コントラストのノーズコーンを備えていなければならない。最も視認性の高い色は蛍光イエロー、オレンジ、グリーンである。」を追加する案は承認された。

■現在のS7A 3.3.6項のプッシュシステムに、「プッシュされた選手は30秒の間にテイクオフするかを決定し、その後の30秒でテイクオフを完了しなければならない。」となっているところを、「その後の連続した（この意味するところは、連続して30秒間テイクオフできるコンディションが続いたら、その30秒間ということ）30秒間にテイクオフを完了しなければならない。」に変更する提案は承認された。

■2024年世界選手権クラス5を足尾エリアで開催するべく2022年のCIVL総会で立候補するための準備を進めることをHG委員会で表明した。

【PGXC関連】

■タンデム技能証に関して、非営利との注釈を追加して（FAIの顧問弁護士も問題はないとのこと）承認された。

■現在のS7A 2.2項の参加資格において、「ヨーロッパ選手権ではヨーロッパWPRSランキングでトップ500に入っているか、FAI公認大会のどれかひとつで最低でも20ポイントを獲得していること」となっているのを、「ヨーロッパWPRSランキングでトップ500に入っているか、FAI公認大会のどれかひとつで最低でも40ポイントを獲得していること」と変更する提案は承認された。

■ブルガリアからのリーディングのウエイトに関する提案で、タスクごとにリーディングのウエイトを決められるようにするという提案であったが、スコアリング部会への提案とし、1年もんだ後、次回総会で取り上げることとし、今回は取り下げることとなった。

■ブラジルからの、各タスクの1、2位と15位までの中のランダム抽出で1名、計3名のグライダーのラインチェックを行うという提案に関しては、S7A 8.1.4項のトップに、「主催者は機体の耐空性を確認するあらゆる手段を用意しておかなければならない。」を追加することで取り下げられた。

■CCCクラスに関して、認証取得し

た証明書を大会開始114日以前にCIVLに提出されていることとなった（これまでは大会開始90日以前に必要な資料が試験機関に提出され認証取得していることであった）。

【PGアキュラシー関連】

■S7Cの改定案が承認された。その内容は以下のとおり。

3.2.6に「コンディションの変化（主に風向き）により離陸方法を変える（他のエリアに移動、あるいはトーイングで離陸）ことになった場合、新たなラウンドとしてスタート順の1番からスタートする。また途中で中断したラウンドが再開できるコンディションになったら、中断した選手から再スタートする。」を追加。

3.6.2〈ビデオの要求〉をカテゴリー2大会でも必須とする。その内容は「パイロットの最初の接地点の映像が撮れるように十分ターゲットの近くで低いアングルに配置すること。」

4.2〈ウインチの場合のターゲットの場所〉に文言「ターゲットはラウンド間で移動することができるが、ラウンドの途中ではできない。」を追加。

4.4.1〈ターゲットのサイズ〉
カテゴリー1では2m。カテゴリー2では2m、あるいは5m、あるいは10mとし、ローカルルールに明記する。
6.1〈適用される罰則〉に「チーフジャッジはターゲットエリアにおいて危険なフライトあるいはスポーツマンにあるまじき行為に対して警告を与えることができる。」なる文言を追加。

6.2〈罰則の適用〉に「チーフジャッジはターゲットエリアにおいて危険なフライトあるいはスポーツマンにあるまじき行為に対して警告を与えるにあたっては一貫していなければならない。」を追加。

7.1〈コンプレイン〉に「ジャッジングに関するもの以外に対するコンプレインは大会委員長に提起することができる。」を追加。

8.3.1〈ハーネス〉の項に、LTF09の後にEN1651/2018以降を追加。

9.2.1〈カテゴリー2でのジャッジ〉において、これまでは、「記録を承認するには少なくとも1人のカテゴリー1ジャッジが存在しなければならない。」となっていたが、これに記章の承認も追加し、「記録および記章を承認する

には、」と改定する。

9.5〈カテゴリー2大会のジャッジ〉に関して、「以下の経歴を持っていないなければならない」とあるところを、「以下の経歴を持っているべきである」に変更。

【その他】

■選手権の開催地決定

●第5回PGパンアメリカン選手権

2022年1月21日～29日の日程でブラジルのゴヴェルナド・ヴァラダレスで開催される。ただし、テスト大会を2年前の2020年4月に行う（2020年4月にプレワールドカップを大々的に開催するし、オーガナイザーも同じであるので、テスト大会として十分その目的は果たせるので、2021年にさらに同規模の大会をする意味もないとの判断）。

●HGヨーロッパ選手権、PGXCヨーロッパ選手権、PGアキュラシーヨーロッパ選手権、PGアクロバット世界選手権

トルコのWAGがキャンセルとなったため、オープンとし、通常ではない（本来はこのCIVL総会で決定）スケジュールで次回総会において決定する。

■各賞の推薦

●FAI AIR SPORTメダル

第22回HGクラス1世界選手権（イタリア）、第16回PGXC世界選手権（北マケドニア）、第10回PGアキュラシー世界選手権（セルビア）の各主催者に贈られる。

その他は今回推薦が無かった。

■次期総会は、セルビアのベオグラードで、2月6日、7日の予定で開催されることとなった。

■HG世界選手権誘致活動始まる

日本の代表的ハンググライダーエリアのひとつ、茨城県足尾山エリアに、クラス5とクラス1女子の世界選手権を誘致する活動が始まりました。

クラス1・クラス5世界選手権出場経験が豊富な板垣直樹さんを中心とする誘致準備委員会は「世界選手権を開催することによってハンググライダーの魅力を社会に広げ、このスポーツの振興・発展につなげたい」と、2024年の開催地として立候補する準備を進めています。

2019年リーグのチャンピオンたち

2019年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) 両競技委員会が運営する競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして、年間ランキングを決定しています。各リーグの2019年チャンピオンから「ひとこと」をもらいました。2020年もご活躍を！

PG ジャパンリーグ

[総合]

1位	岩崎 拓夫	京 都	3888.8
2位	呉本 圭樹	長 野	3863.7
3位	上山 太郎	大 阪	3782.5
4位	成山 基義	大 阪	3714.6
5位	山下 敦子	兵 庫	3699.6
6位	高杉 慎吾	広 島	3672.0

[女子クラス]

1位	山下 敦子	兵 庫	3699.6
2位	平木 啓子	静 岡	3668.5
3位	中目みどり	東 京	3443.1

[スポーツクラス]

1位	田中 健	滋 賀	2638.6
2位	小田 雅也	愛 知	2438.9
3位	川名 美江	静 岡	2373.9
4位	青木 政昭	千 葉	2316.8
5位	川名 啓	静 岡	2278.6
6位	金本 知子	山 口	2252.4

[2018年-2019年 日本代表選抜]

1位	廣川 靖晃	静 岡	294.1
2位	成山 基義	大 阪	293.3
3位	上山 太郎	大 阪	263.5
4位	呉本 圭樹	長 野	254.9
5位	岩崎 拓夫	京 都	249.5
6位	高杉 慎吾	広 島	230.7

[2019年 日本代表選抜]

1位	廣川 靖晃	静 岡	221.9
2位	岩崎 拓夫	京 都	192.5
3位	成山 基義	大 阪	189.2
4位	呉本 圭樹	長 野	176.2
5位	上山 太郎	大 阪	171.3
6位	山下 敦子	兵 庫	148.6



総合 1 位
岩崎 拓夫

2019年は、廣川選手が世界選手権 7 位、山下選手がW杯アジアツアー優勝

と、Jリーグメンバーの活躍が光っていました。こういった仲間と互いに切磋琢磨することで、モチベーションを高めることができて、結果に結び付いたと実感しています。

今年の目標は、初開催のXCアジア・オセアニア選手権で優勝すること。そのために、World Cupに出場して、課題を見つけることでレベルアップをしていきます。今年もよろしくお願いします。



女子クラス 1 位
山下 敦子

3本計上に変わり、上位もシード圏も最終戦まで大きく順位が変わる面白い1年となりました。

昨年より順位が上がるなど夢にも思いませんでしたが、会心の飛びが成績に繋がって総合5位、僅差で女子トップを守ることができ、大変嬉しいです。海外の大会でも好成績を残すことができ、私にとって飛躍の1年となりました。

CCC機とほぼ互角に戦える愛機とこの時代に会えて幸せです。また、ハイレベルな今の日本で鎬を削りあえるのは、多くの皆様の取り組みや思いのお陰です。今年も安全に益々盛り上がりますように！



スポーツクラス 1 位
田中 健

ここ数年は結婚をはじめ引っ越しなど数々の出来事があり、フライト時間も以前と比べると減っている中での結果でしたので、良かったです。

しかし多くの仲間がどんどんオープンクラスにクラスアップしていく中で、スポーツクラスの機体では行き詰まりを感じていたのも事実です。そのため2019年後半の一部の大会ではオープンクラスでチャレンジを始めました。初戦は成績としては振るいませんでしたが、やっていけると自信を得ることができました。2020年シーズンは本格的にオープンクラスとして参戦し

ていきます！

今年は新型コロナウイルスの問題があり、初戦が中止になるなど大会・エリア関係者の皆様もご苦労があると思いますが、今年もよろしくお願い致します。

PG ジャパン 2 リーグ

[総合]

1位	森山 寿幸	高 知	2277.0
2位	鈴木 彩	東 京	1950.0
3位	梅本 昌克	兵 庫	1665.0
4位	浮須 正直	神奈川	1602.0
5位	川地 正孝	静 岡	1585.0
6位	杉山 卓也	神奈川	1582.0

[女子クラス]

1位	鈴木 彩	東 京	1950.0
2位	富永あゆみ	兵 庫	1381.0
3位	四方 純	大 阪	1251.0

[チーム]

1位	塾びよ	16.0
2位	ふえありー	15.0
3位	エリアヤマザキ	13.0



総合 1 位
森山 寿幸

高知県でのんきに飛んでいるモリワカ（本名は森山）です。2019年にフル参戦したのは「J2の成績でJ1への参加優先権を得られる」と、ルールを勘違いしていたのがキッカケでした（セレクションポイント対象大会の存在を知らなかった一）。

石川県の大会でいきなり優勝できて、J2リーグ年間1位にもなれましたので、本当にラッキーな年でした。（J1でも地元四国の大会で初優勝できました。）

J2リーグは、普段のエンジョイ PARAの延長にある感じでとても良い雰囲気です。コンペ（競争）ではありませんが、楽しめる感じがある素晴らしい大会ばかりだと思います。タスクや運営も安全を重視しているように感じられるので、安心して参加できました。今年もJ2リーグへの参戦を楽しみにしています。



女子クラス 1 位 鈴木 彩

昨年、J2の大会に初参加ということ
で、とても緊張しましたが、主催者の
方々や選手の皆さん、一緒に大会に参
加した仲間のパイロットたちのおかげ
で、どの大会もとても楽しませていた
だきました。そうしたなか、J2リーグ
で女子1位の成績を収められるとは夢
にも思わず、自分でも驚いています。

普段から安全第一をモットーに飛
び、機体もBクラスで今は満足してい
るので、今年もまたJ2の大会を心待ち
にしています。皆で楽しく飛びましょ
う！

PG アクセラシーリーグ

[スクラッチクラス総合]

- 1 位 岡 芳樹 東京 177.0
- 2 位 和田 浩二 静岡 163.5
- 3 位 日野 政浩 宮 城 152.5
- 4 位 古賀 光晴 北海道 145.6
- 5 位 川村 真 宮 城 143.3
- 6 位 塚原 隆信 茨 城 131.0

[スクラッチクラス女子]

- 1 位 伊藤まり子 愛 知 111.5
- 2 位 菊田 久美 宮 城 83.6
- 3 位 橋本みさ紀 大 阪 70.5

[ハンディキャップクラス総合]

- 1 位 岡 芳樹 東京 177.0
- 2 位 和田 浩二 静岡 158.9
- 3 位 日野 政浩 宮 城 155.2
- 4 位 吉原 薫 栃 木 147.3
- 5 位 菊田 高司 埼 玉 138.4
- 6 位 川村 真 宮 城 137.5

[ハンディキャップクラス女子]

- 1 位 伊藤まり子 愛 知 99.5

- 2 位 菊田 久美 宮 城 93.3
 - 3 位 山口 香代 東 京 73.2
- [チーム]

- 1 位 Airkassy 49.0
- 2 位 飛魔人くらぶ 32.0
- 3 位 エキストラ 25.0



スクラッチクラス 総合 1 位 岡 芳樹

2019年は天候にも恵まれ、すべての
大会が100%ポイントの付く大会とな
り、表彰台の中央に2回、左右に1回
ずつ乗ることができ、大きく崩れる大
会もあったが何とか1位に返り咲くこ
とができた。

日程および気象条件が合えば、ホー
ムエリアの朝霧で毎週末トレーニング
をしているのだが、アクセラシー競技
はコンディションが同じと言えること
が無く、常に新しい挑戦となる。それ
に対応するためにトレーニングを重
ね、瞬時に最適なコントロールが、頭
で考えずに体が反応するようにしなけ
れば世界に通用しない。大会を含めて
年平均700本ほど飛んでいるが、まだ
まだ先ははるか遠い。



スクラッチクラス 女子 1 位 伊藤 まり子

2019年 Aリーグで女子年間優勝が
できたことをとても嬉しく思います。

私にとっての第一戦となった鳥山の
大会で、風に恵まれて初めてスクラッ
チクラスの総合で表彰台に上がる事が
でき、メンタル面が一気に回復するス
タートが切れました。

アクセラシーの楽しさを再認識する
ことができ、仲間達のおかげでとっ
ても大きな1歩を踏み出せたように感じ
ています。

メンタルの大切さと、笑顔の大切さ
を実感する2019シーズンでした。ずっ
と支えてくれた仲間たちに……感謝し
ます。

PG クロスカントリーリーグ

- 1 位 大曾根 淳 最長4/13-134.5km
+111.4+97.8+90.1 計433.86km
 - 2 位 多賀 純一 最長4/13-131.3km
+104.7+98.0+93.6 計427.62km
 - 3 位 中川 喜昭 最長5/5-133.7km
+106.9+94.2+73.5 計408.28km
 - 4 位 花村 泰明 最長3/15-116.9km
+114.6+80.6+55.2 計367.36km
 - 5 位 中目みどり 最長4/13-127.1km
+100.3+80.9+56.8 計365.03km
 - 6 位 長尾 義敦 最長4/18-111.6km
+90.3+81.1+81.0 計364.02km
- 最長飛行 大曾根 淳 4/13-134.5km
茨城県石岡市→福島県郡山市富久山町



1 位／最長飛行 大曾根 淳

賞をいただくのは30数年ぶりなの
で、思いがけずこのような機会をいた
だき光栄です。Cクラスの機体での受
賞なので、とても嬉しいです。

例年、筑波に行くのは数回でしたが、
2019年は筑波でより多く飛ぶことがで
き、良い経験を積めました。特に4月
13日は多くの方が白河を越え、私自身
も郡山まで行くことができ、思い出深
いフライトとなりました。

2019年競技・XCリーグを振り返って

2019年のJリーグは9大会開催され、
大会として成立したのは7大会。計上
できるタスクは8本と、まあまあの出
来であった。また、参加枠を超えた希
望選手が出たためセクションを行っ
た大会が4大会と、盛り上がりも見せ
ている。

J2リーグも、5大会と増加し(残念
ながら1大会は台風のため中止となっ
てしまったが)、参加選手も増えて、
少しずつではあるが盛り上がりを見せ
つつある。これはリザルト集計にJHF

から補助手当をしていることが貢献し
ていると思う。ぜひこの調子で定着す
るように期待したい。

一方、クロカンリーグは参加者が前
年度の半分、フライト本数もほぼ半減
となってしまった。これはタイムリー
なランキングを公表できなかったこと
が大きく響いていると思い、2020年は
よりタイムリーな公表を心がけてゆき
たい。またフリーディスタンスに加え
て、アウトアンドリターン、トライア
ングルなどの種目も含める方向で、モ

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

ティベーションをあげられるようにし
たいと考えている。

アクセラシーリーグは、Jリーガー
たちの参加が増えたこともあり、大幅
に増加した。7大会が開催され、すべ
ての大会が4本以上、そのうち5大会
がマックスの6本成立と、非常に恵ま
れた年となった。ただ、参加選手に若
い選手が少ないことは、今後を考えると
懸念材料である。何とか活性化して
ゆきたい。

2019年は地元松田からのXCができなかったのですが、2020年は地元からの100km越えを目標に精進したいと思います。

HG フライトコンテスト

[ストレートディスタンス クラス1]

1位	砂間 隆司	5/3	157.04km
2位	石坂 繁人	4/18	152.51km
3位	氏家 良彦	4/6	142.89km

[ストレートディスタンス クラス5]

1位	松田 隆至	4/18	208.92km
2位	岡田 伸弘	4/18	186.69km
3位	佐々木則生	4/18	151.5km

[アウト&リターン クラス1]

1位	田中 元気	4/13	156.78km
2位	氏家 良彦	4/13	80.43km
3位	田中 元気	5/4	80.39km

[アウト&リターン クラス5]

1位	松田 隆至	4/3	116.31km
2位	山本 剛	3/24	102.47km
3位	佐々木則生	4/21	69.38km

[トライアングル クラス1]

1位	田中 猛	5/4	68.26km
2位	中村 智史	5/5	68.01km
3位	太田 昇吾	12/8	63.53km

[トライアングル クラス5]

1位	板垣 直樹	4/16	101.3km
2位	山本 剛	11/30	90.42km
3位	松田 隆至	1/2	83.52km

[デュレーション クラス1]

1位	大沼 浩	4/29	7:50:11
2位	砂間 隆司	5/3	5:54:54
3位	石坂 繁人	4/18	5:45:32

[デュレーション クラス5]

1位	佐々木則生	5/18	7:11:00
2位	松田 隆至	4/18	6:51:20
3位	岡田 伸弘	4/18	6:07:19



ストレートディスタンス クラス1 1位

砂間 隆司

157kmの記録が1位というのは近年ではやや短いように感じますが、なかなかコンディションが揃わないと100kmオーバーのフライトというのは今でも難しいのかな、と思います。とはいえ1位は嬉しいです。

長距離のクロスカントリーは特に自分自身でのリスク管理が大切になりますが、良い気象条件に恵まれると、思った以上に素晴らしいフライトができることがあります。

また、みんなで飛んだ方が楽しいし、無線が繋がっていると励みにもなります。一緒に飛んでくれたり回収してくれたりするフライト仲間に感謝しています。

もっとクロスカントリー仲間が増えて欲しいです。



ストレートディスタンス ／アウト&リターン クラス5 1位

松田 隆至

■ストレートディスタンス

移動性高気圧前面でルート上の風はそれほど強くない条件の日でした。八溝山西で最高高度2800mでしたが、烏山～黒羽、白河～郡山の区間で良いサーマルを見つけられずに平均速度を落としてしまいました。福島盆地でラストサーマルに乗れて1950mで17時過ぎに離脱し、日没時間を気にしながらファイナルグライドしました。

■アウト&リターン

冬型の気圧配置で、日光から足尾エリアに弱風帯が形成される気象条件で

した。益子から北西方向のシアラインを使ってフライトしました。

2部門で1位を取ることができ、うれしく思っています。このようなフライトができるのは、いつも回収に走ってくれる方々のおかげです。ありがとうございました。



アウト&リターン

クラス1 1位

田中 元気

4月13日に茨城県足尾エリアから北に78km（栃木県那須町伊王野）行って帰ってくる156.78kmのフライトをすることができました。2000m以上も上がる好条件の中、クラス5日本選手権が行われており、北の端までは一緒に飛べたため、ペースよく進めた事が大きかったです。

テイクオフしたときはクロスカントリーで北を目指そうとしていたのですが、北西風っぽく感じる空域があり、予報でも白河以北では北風にぶつかることが予想され、戻る事を決意しました。強めの西風に捕まらないようにコースをとって南下。何度も上げ直し足尾のテイクオフまで戻ることができました。

龍門山でも東に40km、西に15km行って戻った日があり、アウト&リターンの当たり年となりました。今年はトライアングル150kmとかもやってみたいと思っています。



トライアングル

クラス1 1位

田中 猛

フライトコンテストで表彰されるのは初めてです。関西では大きな平野が

2019年フライトコンテスト・HGシリーズを振り返って

ハンググライディング競技委員長 板垣 直樹

ストレートディスタンスだけのXCリーグから現在の4部門のフライトコンテストになって3年目となり、記録の更新だけでなく参加者も増えた。参加エリアも足尾・板敷・大佐だけでなく石津・丹沢・耳納・龍門山等が入り、盛り上がってきたことは嬉しい限りだ。

フライトコンテストは各々のパイロットが自分の技量と機体性能を理解し、その時の気象条件を読んで飛ぶ、自分自身の挑戦です。ホームエリアでは記録を更新できないとか、大したフ

ライトができないとか諦めず、自分でタスクを決めてコンプリートする。その挑戦が楽しみであり、ホームエリア、更にはハンググライディングスポーツの盛り上がりにつながります。

HGシリーズ大会は5開催、デイクオリティが1近く付いた競技は7タスク。

天候に恵まれたとは言えないが、上位選手には大きく影響しなかったようだ。それは彼らが大会で安定して良い成績を残していること、また自身のモチベーションや環境を整えて、多くの

大会に出場していることを示している。

ランキングで目を引くのが名草選手、前回の10位から4位に躍進し若手選手の目標となり、活性化の起爆剤にもなっている。そして1位の田中選手の強さは安定したものとなったと言える。

今年はスポーツクラス参加者の増加もあり、特に若手の台頭に期待したい。

春は好条件に恵まれますがラフなコンディションになりがちです。無理をせず、安全で楽しいフライトを続け、今年も盛り上げていきましょう!!

少なくトライアングルを成立させるのはとても難しいので、この部門で1位を取れたのは大変自信になりました。

当初は龍門から90kmトライアングルを狙っていたのですが、結果的には北方向に距離を伸ばせず失敗でした。テイクオフ直後にいつもより高く上がったので、お参りに行った高野山のお陰で、狙っていたトライアングルとは違う形ですが、記録を作れました。

今年は比叡山にお参りを、大佐から狙っていきたいです。



**トライアングル
クラス5 1位
板垣 直樹**

4月16日に足尾エリアから101.3kmの三角を飛びました。

トライアングルやアウト&リターンは気象条件を判断し何処まで距離を伸ばしソアラブルな時間帯をいかに大きく飛びきるか、飛行技術だけでなく気象条件をどれだけ読めるかにかかってくる。特にトライアングルは最短レグが総距離の28%以上でなければならず入念な飛行計画が必要。さらに飛びながら条件に応じ臨機応変に対応する能力も問われる非常に高度な部門だ。

この日のタスクは松田さんが組み、松田さん、星さん、繁人と私の4人で挑戦しました。結果、私だけがコンプリートし記録達成となりました。素晴らしいタスク、また、途中まで一緒に飛び、降りてからも車から情報をくれた素晴らしい仲間感謝します。



**デュレーション
クラス1 1位
大沼 浩**

前年6月に茨城県板敷で8時間56分飛んでいましたが、7月に山形の十分一山で9時間57分の記録が出て完敗。そのフライトをLiveTrackで観戦して、長時間飛びたい気持ちを胸に翌シーズンまで待ち続けました。4月28日に翌日の天気情報から「狙える日が来た」と感極まり、しっかりとフライト準備し、29日に再び板敷でトライした結果、7時間50分と前年には及ばないものの、一日の大きく移り変わる条件の変化を感じて楽しみながら長時間フライトできた事は嬉しい限りです。ありがとうございました。



**デュレーション
クラス5 1位
佐々木 則生**

巷で変態活動がブームとなっていて、私も一回くらい変態活動をしてみたいと思っていたところ、絶好の日がやってきました。

足尾からのんびり八郷一周して、さらにもう一度板敷まで行ってきたところでまだ4時間。「あー飽きたー。もう降りたい」と思いながらリッジを取っていると、6時間くらい経ったところで急に悟りを開きました！もうルンルン気分です。しかしルールでは日没後のフライトは認められていませんので無理やり高度処理してランディングとなりました。

どこにも行かずに一日中同じ場所で浮いているというのなかなか味わい深いものです。皆さんもぜひ一回やってみてください～！

HG シリーズ

[総合]

1位	田中 元気	大 阪	2814
2位	砂間 隆司	愛 知	2738
3位	大門 浩二	茨 城	2710
4位	名草 慧	大 阪	2625
5位	鈴木 博司	岐 阜	2600
6位	板垣 直樹	茨 城	2596

[女子]

1位	佐野 容子	和歌山	1508
2位	内田 秀子	東 京	1234
3位	櫻井さやか	栃 木	996

[世界選手権選抜総合]

1位	田中 元気	大 阪	218.92
2位	鈴木 由路	東 京	205.65
3位	大門 浩二	茨 城	202.81
4位	砂間 隆司	愛 知	201.37
5位	板垣 直樹	茨 城	199.68
6位	氏家 良彦	兵 庫	193.44

[世界選手権選抜女子]

1位	佐野 容子	和歌山	96.00
2位	櫻井さやか	栃 木	68.11
3位	谷古宇瑞子	栃 木	63.19



**総合 1位
田中 元気**

ランキング1位となれたこと、嬉しく思います。今回は二度目の日本選手

権者にもなれた上での1位を取れたことが本当に嬉しいです。グライダーのチューニングが上手く行かなかったこともありましたが、周りとも相談して少しずつ改善しながら、それでもその時のグライダーの調子に合わせて飛べたので、良かったかなと思います。ここ数年は良い飛びができていますが、慢心せずに頑張っていきたいです。できる限り、若手だったりエリア毎の方々であったり、たくさんの人達とふれあいながら、みんなで安全に楽しく飛び続けていければと思います。



**女子 1位
佐野 容子**

2019年は、願いが叶い世界選手権に出場させていただきましたが、アクシデントにより途中から飛行できなくなってしまいました。応援してくださった皆さん、日本チームの選手の方には大変ご迷惑をお掛けし申し訳ない気持ちで一杯です。また、その2か月後、再骨折により年末まで入院となってしまったため、このような賞をいただけるとは思ってもおらず、ただただ嬉しく思っています。

今もお復帰を目指しリハビリ中ですが、以前にも増して「より鳥のように空を飛ぶたい」と思うようになりました。また空で一緒にできる日を楽しみにしています。有難うございました。

■クラス1／クラス5のハンググライディング日本選手権を延期

新型コロナウイルス感染拡大の回避のための各種イベント開催自粛要請に応え、3月に開催を予定していた二つのハンググライディング日本選手権を秋に延期することにしました。参加を予定されていた選手の皆様、大会関係者の皆様、応援いただいている皆様のご理解とご協力をお願いします。

●2020ハンググライディング日本選手権 IN 板敷 (クラス1)

日程：10月1日(木)～4日(日)に延期
開催地：茨城県板敷フライトエリア

●2020 Hang Gliding Class V Japan Championship IN ASHIO

日程：10月31日(土)～11月3日(文化の日)に延期

開催地：茨城県足尾山ハングエリア

JHFからのお知らせ

■総会の傍聴をご希望の方へ

6月23日(火)、昨年度と同じ会場、東京都北区北とぴあで、2020年度JHF定時総会(通常総会)を開催します。

報告事項・決議事項は、4ページに掲載(JHFの動き)のとおりです。

総会の傍聴について、5月26日以降にJHFウェブサイトでご案内します。傍聴をご希望の方は、この案内をご覧のうえJHF事務局にお申し込みください。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中

A級からXC証まで技能証の各課程に沿って、ベテラン教員による模範演技を収録したDVDを頒布しています。詳細はJHFウェブサイトまたは事務局まで。

■チェック5タグを頒布

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実施しています。2018年は全国のフライヤー会員の皆さんに「チェック5タグ」をお届けしました(JHFレポート222号に同封)。それぞれタグを活用し、プレフライトチェックの徹底に役立てておられることと思います。

このタグをご希望の方は各地のJHF登録スクールでお求めください。

JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円(送料込

上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります(1年以下の懲役または100万円以下の罰金)。うっかり忘れていたということのないようお願いします。

み)。メールかFAXにてご連絡ください。

今後も「チェック5タグ」を装着し、フライトの基本中の基本、プレフライトチェック、クロスチェックを徹底されるようお願いします。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は、JHFウェブサイトの「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」ページより貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力の上、メールかFAXでお申し込みください。

■転居のお知らせや各種申し込み

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートには、賛助会員からののお知らせを同封しています。また、神奈川県、静岡県在住の方には県連盟からののお知らせも同封しています。

第7回JHFフォトコンテスト 作品募集中!

第7回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストにぜひご応募ください!

JHFは、ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしさ、楽しさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる「写真」が、普及と振興のために役立つと考え、フォト

コンテストを開催しています。

印画紙でのご応募だけでなく、データでのご応募(10MB以内、jpg形式、メール送信可、ただし応募専用アドレスまで)も受け付けています。

賞金は、最優秀賞(1作品)5万円、優秀賞(1作品)3万円、入選(数点)各1万円です。また応募作品の中から14点を選び2021年JHFカレンダーに掲載の予定です。

応募締切は9月7日(月)受付まで(郵送の場合は当日消印有効)。

自分の力で空を滑空できる醍醐味を感じられるような作品を期待します。詳しくはJHFウェブサイト(4月1日トピックス)をご覧ください。多くのご応募をお待ちしています。



第6回最優秀賞 中村正哉さん撮影「光の中へ」

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行(銀行コード0005)

巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート229号

発行日:2020年(令和2年)4月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社サンライズ